

明星大学発達支援研究センター紀要投稿規程

1. 明星大学発達支援研究センター紀要MISSION(以下本紀要という)は、発達障害に関する国内外の学術調査・研究を掲載し、発達障害への支援に関する知見を蓄積・発信することをもって、明星大学及び社会に貢献することを目的として刊行される。
2. 本紀要は、年1回、当該年度内に発行することを原則とする。紀要は電子化し、大学の機関リポジトリに掲載する。その他必要に応じて紙媒体及び抜刷りを作成する。
3. 本紀要の原稿募集・編集は発達支援研究センター紀要編集委員長と編集委員が行う。編集委員長は明星大学発達支援研究センター長とする。編集委員長は編集委員を指名する。
4. 本紀要に投稿できるものは以下の通りとする。
 - ①大学教員(国内外を問わない。投稿の際、所属、肩書き、住所、電話番号、所属機関から発行されている投稿者のメールアドレス(Gmailなどのフリーメール、自宅のメールは不可)が明記されていること)
 - ②当センターに所属する研究員
 - ③本紀要編集委員が認めるもの
5. 本紀要への投稿は未発表、未投稿のものに限る。ただし、口頭発表の場合、その旨を明記してあれば対象とする。
6. 本紀要に掲載する原稿の種類は以下の通りとする。
 - ①原著論文
 - ②実践報告
 - ③資料
 - ④総説
 - ⑤活動報告
 - ⑥短報
 - ⑦その他紀要編集委員会が認めたもの
7. 投稿原稿は査読制とする。査読は、編集委員長が指定する者が行う。採否は、査読者の審査に基づき、編集委員長が決定する。
8. 校正は原則として1稿までとし、執筆者が行うものとする。校正は単に誤植の訂正など、必要最低限に止める。
9. 執筆者には本誌5部、抜き刷り20部を贈呈する。抜き刷りの追加を必要とするものは、原稿送稿時か校正終了時に申し出のあった場合に限り追加作成する。ただしその追加作成分は実費を徴収する。
10. 本紀要に掲載された論文の著作権は明星大学発達支援研究センターに帰属する。ただし、執筆者自身が自分の論文を利用することは差し支えない。
11. 執筆要領は別に規定する。
12. 本規定は2019年7月1日より実施する。

明星大学発達支援研究センター紀要 執筆要領

1. 原稿の枚数

原稿は図表を含め、原著論文、実践報告、資料いずれも2万字以内とする。

図、表、写真は原則としてそれぞれ1点を刷り上がり4分の1ページ(650字)相当とする。

2. 原稿の様式

①原稿はA4用紙、横書きを原則とし、ページ番号をつける。

②横書きを原則とする。

③図表は挿入箇所を明記すること。表の場合、表1 表2 として該当する表の上に説明文を入れる。図の場合、図1. 図2. として該当する図の下に説明文を入れる。

④著者以外が作成した図表や写真等を記載する場合は、出典を明記し、必要な場合は著作権者の許諾を得ること。

⑤章分けは1. 2. 3とし、節は1. 1.、1. 2.、1. 3とし、項は(1) (2) (3)とし、それぞれ小見出しをつける。

⑥論文には英文題名、英文著者名、所属を必ずつける。

⑦原著論文には400字以内の要旨とそれに対応した英文サマリー300語以内をつける。実践報告、資料には400字以内の和文要旨をつける。

⑧論文には3-5語の検索用キーワードをつける。

3. 文献表記

①文献は本文中に引用したもの(原則として、直接当たった文献に限定する)のみをあげ、本文の後に筆頭著者のアルファベット順に並べる。

②雑誌など逐次刊行物の名称は省略せずに記載する。

③著者名は3名以下のものは全員、4名以上の場合は3人目までを全員書き、4人目からはet.al(または他)とする。

④書き方は、雑誌の場合は氏名、発行年次、論文題名、雑誌名、巻、ページの順に、単行本の場合は著者名(編集者名)、発行年次、書名、発行所名、発行地(国内は不要)、ページとする。

記載例

McCloskey, G. (1990) : Selecting and using early childhood rating scales. *Topics in Early Childhood Special Education*, 10(3), 39-63.

Flanagan, D. P., Ortiz, S. O., & Alfonso, V. C. (2008) : Response to intervention (RTI) and cognitive testing approaches provide different but complementary data sources that inform SLD identification. *Communiqué*, 36 (5), 16-17.

上野一彦(2005) : 発達障害児への理解と支援の立場から. *発達障害研究 = Japanese Journal on Developmental Disabilities*, 27(2), 95-97, 2005.

杉山登志郎, 原 仁(2003) : 特別支援教育のための精神・神経医学. 学研教育出版.

編集後記

明星大学発達支援研究センター紀要『MISSION』は、本誌で6号目を迎えました。昨年1月より新型コロナウイルスの影響が広がり始め、4月には緊急事態宣言が発令される等、2020年度はまさに大きな混乱の中でのスタートとなりました。収束への道筋が見えない状況が続いているため、4月当初は本誌の刊行も難しいのではないかとおりましたが、先生方のお力添えを賜り、無事に刊行することができました。心より御礼申し上げます。

この1年を振り返ってみると、私たちの生活には様々な変化が生じました。個人的には、季節や体調に関係なくマスクを着用し、ポケットタイプアルコールスプレーを持ち歩くようになりました。周囲にも同様の人が多くいるため、今日では“New Normal”な行動と言えるかもしれません。しかし、2018年にこの行動をとっていた場合、周囲からは「神経質な人」「少し変わった人」と思われていたのではないのでしょうか。コロナ禍による生活様式の変化を通して、“Normal”の基準は何かのきっかけで大きく変わるということを改めて実感しています。

そのような中、本誌では『実行機能に注目した支援・介入』を特集として組み、実行機能研究の世界的な権威であるマクロスキー博士の講演録をはじめ、国内外で最先端の研究と実践をしておられる先生方にご寄稿頂きました。本誌の内容が、発達障害のある人やその支援・研究に携わっている方々の一助となることを心から願います。

発達障害のある人への支援の充実に向け、当センターでは今後も研究活動に励んで参ります。皆様方におかれましては、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(編集委員を代表して 秋元孝城)

明星大学発達支援研究センター紀要 MISSION 第6号

2021(令和3)年 2月20日 印刷
2021(令和3)年 3月 1日 発行

発行者 明星大学発達支援研究センター
センター長 吉川 かおり
編集者 明星大学発達支援研究センター紀要編集委員会
発行所 明星大学
東京都日野市程久保2-1-1
電 話 042-591-5111(代表)